

To Draw on Stone Some Stories of Lithography and its Creators

石ノウエニ描ク 石版画と作り手たちの物語

2023 年 4 月 22 日 (土) – 7 月 2 日 (日)



1. 織田一磨『大阪風景』道頓堀 1917 年 和歌山県立近代美術館蔵

プレス向け解説会のご案内 2023 年 4 月 22 日 (土) 13 時 30 分から

ご出席の場合は事前に下記あてにお知らせください。ぜひ、この機会に取材していただき、魅力を発信していただきますようお願い申し上げます。

お問い合わせ先

和歌山県立近代美術館

学芸担当：植野比佐見 広報担当：村井

〒640-8137 和歌山県和歌山市吹上 1-4-14

T E L : 073-436-8690

F A X : 073-436-1337

E-MAIL : press@momaw.jp

W E B : <https://www.momaw.jp>

Facebook : <https://www.facebook.com/moma.wakayama/>

Twitter : https://twitter.com/moma_wakayama



石ノウェニ描ク 石版画と作り手たちの物語

2023 年 4 月 22 日（土）－ 7 月 2 日（日）



版画は凸版、凹版、孔版、平版に大きく分けられ、リトグラフは平版の一種です。ほかの版式では、彫るなどして版に凹凸を作り、あるいは版に孔をあけて原版としますが、リトグラフは版面が平らなままで水と油がはじきあう性質を利用して版を作ります。ほかの版式に比べて不思議にも感じられるかもしれませんが、意外とわたしたちの身近なところにあって、一般的な印刷に使われているオフセットもリトグラフから発展した技法です。

リトグラフは、18 世紀終わりにミュンヘンでアロイス・ゼネフェルダーが発明し、1798 年頃に「化学的印刷術」として完成されてヨーロッパに普及しました。版の材料として天然の石灰石を使ったため、ギリシア語で石を指す「リトス lithos」による版画、リトグラフと呼ばれました。

はじめは楽譜や地図の実用的な印刷に使われましたが、19 世紀には画家たちがこの技術によって版画作品を制作するようになりました。版画の技法のなかでもリトグラフの画期的なところは、版に描かれた痕跡を、彫師の手を経ないで残らず製版し、印刷できることでした。彼らは製版に使うリトクレヨンや、ペンや筆につけた解き墨を使い、手描きの繊細で自由なタッチや、水彩画のようにやわらかなにじみなどによる豊かな表現を追求しています。また、優れた製版、印刷の技術を持つ版画工房との共同作業も大きな実りをもたらしました。

日本にリトグラフ印刷機がもたらされたのは、1860 年のことでした。プロイセンの使節が印刷機一式を幕府に贈ったのです。そして、明治時代には欧米から指導者が迎えられてリトグラフによる様々な実用印刷物が制作されて普及し、そのなかから版画も生まれました。その後、美術学校などでも教えられるようになると、国内あるいは国際的な展覧会でも活躍する石版画家たちが現れました。本展では、ムンクやルドンの名品や、織田一磨の『東京風景』『大阪風景』から現代の作品まで、当館の東西の版画コレクションを中心に、石版画の歴史とともにその魅力をお伝えします。

開催概要

主 催	和歌山県立近代美術館
会 場	和歌山県立近代美術館 2 階展示室
会 期	2023 年 4 月 22 日（土）－ 7 月 2 日（日）
開館時間	9 時 30 分－17 時（入場は 16 時 30 分まで）
休 館 日	月曜日
観 覧 料	一般 520(410) 円、大学生 300(260) 円 （ ）内は 20 名以上の団体料金 * 高校生以下、65 歳以上、障害者、県内に在学中の外国人留学生は無料 * 第 1 日曜日（5 月 7 日、6 月 4 日、7 月 2 日）は無料 * 第 4 土曜日（4 月 22 日、5 月 27 日、6 月 24 日）は「紀陽文化財団の日」として大学生無料

関連事業

内容の変更、事業の中止を行う場合があります。
変更があった場合は、美術館のウェブサイトでお知らせします。

▶担当学芸員によるレクチャー

日時：5月7日(日)、6月4日(日)、7月2日(日) 各日14時から

主な出品作品

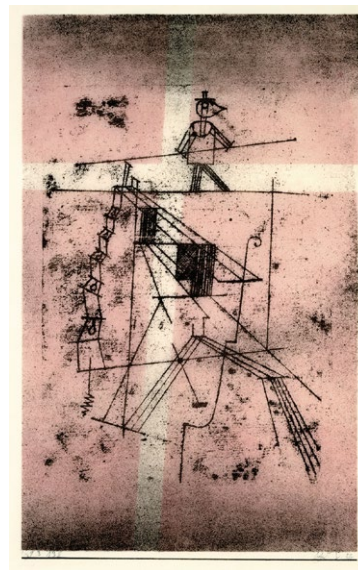
掲載用画像については広報担当にお問合わせください。
*文字のせ、トリミング等のご遠慮ください。 *すべて和歌山県立近代美術館蔵です。



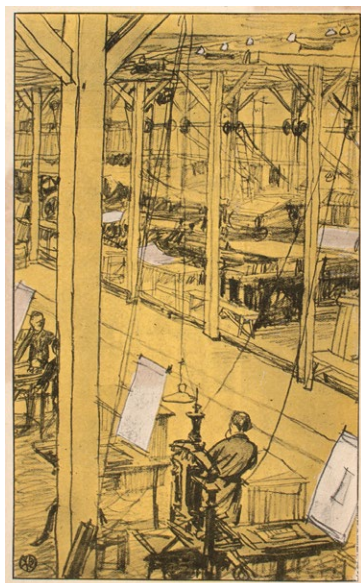
2. オディロン・ルドン《聖アントワーンの誘惑 第3集 18. アントワーン：これらすべての目的は何だろう？ 悪魔：目的などはないのだ！》1896年



3. アンリ・ファンタン＝ラトゥール《神々の黄昏：ジークフリートとラインの乙女（第2ステート）》1898年



4. パウル・クレー《綱渡り》1923年



5. 石井柏亭《休業》『方寸』第2巻第4号挿画 1908年



6. ワルワーラ・ブノワ《樹》制作年不詳



7. 織田一磨《『東京風景』上野廣小路》1916年



8. 織田一磨《深林》1927年



9. 碓伊之助《そば屋》1933年



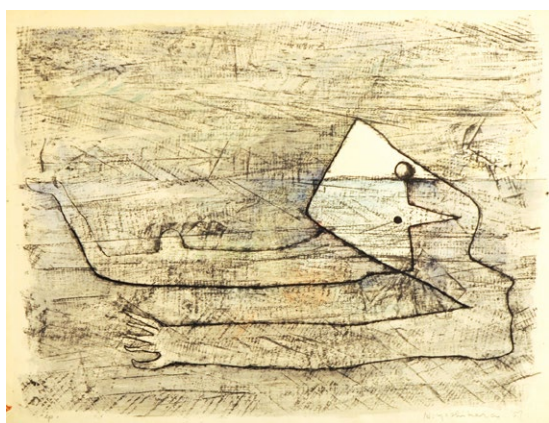
10. 泉茂《祭》1957年



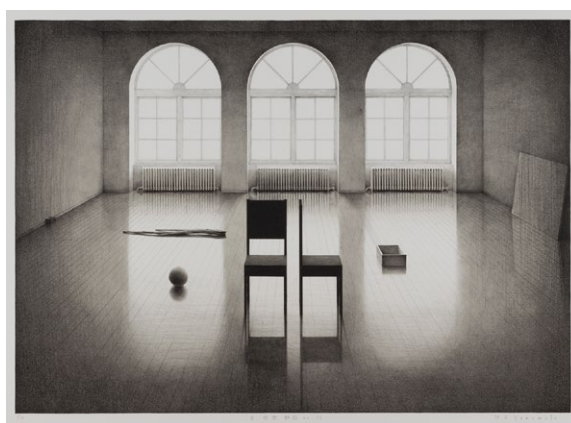
11. 村井正誠《風》1962年



12. 井田照一《Stone, Paper and Stone》1976年



13. 吉原英雄《潜水B》1957年



14. 山本桂右《光・時間・静寂 No.13》1998年

同時期に開催の展覧会

▶コレクション展 2023 - 春

特集 新収蔵 奈良原一高の写真

会期：2月11日（土・祝）-5月7日（日）

▶コレクション展 2023 - 春夏

特集 美術と音楽の出会い

会期：5月20日（土）-7月30日（日）

▶県立博物館（となり）の展覧会

川とともに生きるー川と人の関係史ー

会期：3月11日（土）-4月23日（日）

きのくにの小浪華ー湯浅ゆかりの文人の書画ー

会期：4月29日（土・祝）-6月18日（日）

きのくにのかたなー和歌山県立博物館の赤羽刀ー

会期：7月1日（土）-8月27日（日）